



# GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌

平成28年度「軽井沢写真コンテスト」作品より



「雲海」 中條茂治氏



「霧の池」 渋沢 道宏氏

## Contents

- 1 対談“上質なリゾートの背景を彩る  
歴史文化資源” …… 2p
- 2 ワンチャンと過ごす  
心豊かな滞在ツーリズム …… 4p
- 3 観光協会活動報告 …… 5p
  - 軽井沢観光戦略会議 報告と活動
  - 信州デスティネーションキャンペーン
  - 第3回 軽井沢 WEB 検定に向けて
- 4 Ruiza ちゃん取材日記 …… 6p
  - 「軽井沢ハーフマラソン 2017」
  - 「第8回 グランfond軽井沢」
  - 「16a GiRO di Karuizawa」
- 5 インバウンド誘客宣伝報告 …… 7p
- 6 軽井沢 Topics …… 8p
  - 平昌オリンピック出場決定!! SC 軽井沢
  - 軽井沢・冬ものがたり お知らせ

標高 1000m の

ウェルネスリゾート軽井沢へようこそ





# Special Interview

## 1 上質なリゾートの背景を彩る歴史文化資源 【対談】

「(一般社団法人) 軽井沢ナショナルトラスト (以下、トラスト)」は、避暑地・別荘地として 130 有余年の歴史・伝統・文化をもつ軽井沢において、失われつつある歴史的価値の高い別荘等建築の保護や保全、利活用を図るため、1994 年に設立されました。近年旅行者は地域文化そのものに触れる旅を好む傾向にあることから、そのソフトを蓄積しているトラストのような組織は地域にとって欠かせない存在となっています。

今回、同会の松岡会長をゲストに迎え、上質なリゾートに相応しい“まちづくり”のあり方、地域資産の保護や保存の課題や活用法、トラストのビジョンなどについてお聞きしました。

ゲスト：一般社団法人 軽井沢ナショナルトラスト 会長 松岡温彦氏 左  
聞き手：一般社団法人 軽井沢観光協会 会長 土屋芳春 右  
(文中敬称は略させていただきます。)



▲古い建築物活用 (旧軽カフェ 涼の音にて)

### 【軽井沢独自の文化性】

(土屋) 軽井沢の歴史や風土の研究はトラストの原点ですが、出発点のお話を。

(松岡) 前身は貴重な別荘建築の保存を考える町内有志の方々の運動から始まりましたが、「トラスト」になり、国内では類を見ないリゾートとしての歴史や文化の保存や再生、研究をテーマとして誕生しました。軽井沢は 130 年前に欧米の文化に出合って再スタートしたことと夏が涼しく英気が養われる気候、環境であることが一番のポイントです。そこに滞在することにより創造力と思考力が高まり仕事へとつながる“場としての価値”が、絶対的な魅力につながっています。欧米では古くから避暑地で過ごす文化

があり、彼等が望む気候・風土が軽井沢にはあったということでしょう。日本では町としてリゾート文化の残っている唯一の場所だと思います。

(土屋) 当協会では観光ビジョンに「美しい村 (心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する)」を掲げています。いわゆるウェルネスを上位概念に事業を推進していますが、まさに歴史の延長線上から生まれたビジョンで、この理念をさらに訴求したいと考えています。

(松岡) 軽井沢は健康を背景として、衣・食・住スタイルの文化を育んできました。例えば、欧米人にとって日常的な“散歩”には文化を感じます。親しい人と話しながら、考えながら…。様々な創造力が掻き立てられる時間です。

日本の文学者達も滞在時に仲間と散歩し刺激を受け、作品を誕生させています。また、欧米の宣教師たちが健康的な食生活を送るために高原野菜やパン、ジャムなどの普及に努めたことは、現代の軽井沢食文化として定着しています。そのような歴史的な背景を軽井沢文化として町民が共有することが理想です。また、伝統的に別荘コミュニティがあることが仕事を生み軽井沢に滞在する大きな魅力でもありますのでその視点も重要です。

(土屋) 軽井沢には文化財が多くあり、公共的な資産としての活用できればと願っていますが、

(松岡) 文化財の民間の利活用は進んでいますが、町の歴史的建物 (深山荘や八田別荘) の方向が不透明です。専門家によると建物は部分的な補強やリノベーションで利活用の範囲が広がるとの意見もあり、また大学など学



▲八田別荘 (日本人初の別荘 明治 26 年) 再活用が待たれる

術機関に練らせることも一考かと思います。運営に関しては建物全体か一部を民間の事業者へ賃貸するなど、柔軟な発想で臨まないと現在の状態は解消されないでしょう。

### 【歴史保存の世界的視点】

(土屋) 歴史的建築物の価値創出や維持・保存・利用については海外に学ぶべきところが多くあります。軽井沢は自ら国際リゾート都市と称していますので、先進的な取り組みが求められています。

(松岡) 例として軽井沢に縁のあるカナダとスイスを考えてみると、カナダは軽井沢町がウイスラー市と姉妹都市です。世界的にスポーツ文化のメッカの一つです。スイスは土屋会長が感銘をうけられたダボスがウェルネス文化と国際会議文化のメッカです。どちらの町も首長や議会に留まらず相互に職員派遣を行うことや民間の交流を活発にし、ノウハウを学ぶべきです。そもそも軽井沢が真の国際リゾート都市を標榜するならば、欧米の先進リゾート地より派遣や受け入れなど一定の期間を設け、人的相互関係を築くことが重要です。それにより現地視察のような表面的な理解以上に背景が学べ、将来的には有益なネットワーク化にもつながるでしょう。その際には、広く浅くより“ウイスラーとダボス”など数都市に限定し深く学ぶことをお勧めします。

(土屋) 欧州の先進リゾートは長い年月をかけ街を熟成していますが、同時に建築や景観に新しい挑戦が進んでいます。

(松岡) 自律性の高い欧州の町では様々な取組が行われていますが、例えばマスターアーキテクト (※1) が“まちづくり”のグランドデザインに関わり、古い建築物や文化等の価値や活用を考えます。特に旧市街は保存と活用、新市街は新たな生活スタイルと文化を築く場との分けをしています。一方、歴史的な建築物評価においては厳格なルールが設けられている場合が多く、登録された際には公共性の高い文化財とみなされ案内板の表記や一部公開を求められるケースがあります。トラストは町から「軽井沢ブル・プラーク制度 (※2)」事業を委託されていますが、町の権威にも結び付くため、誰でも理解できる基準を設け十分な配慮により進めなければなりません。

### 【文化を集約し発信する】

(土屋) 今後トラストをどのように進めていけますか。

(松岡) これまでの 20 年、会員や関係者の尽力で、軽井沢の建築遺産を守ることに貢献できたとおもいます。建築遺産を買い取って保全、活用するというナショナルトラスト本来の活動は、イギリスのように法整備がなければ実際には困難ですので、全国にある建築遺産保存団体との連携を模索しています。「ヴォーリス建築文化全国ネットワーク」が軽井沢で第二回の全国大会を開かれたように、軽井沢が全国を中心になり、国際的にも発信基地になれる可能性があります。既存の歴史的別荘等建築物調査・研究・登録以外にも、歴史的人物研究、新たな建築様式の調査・研究、諸外国の研究機関との連携を具体化



▲ヴォーリス建築文化全国ネットワーク/ユニオンチャーチ

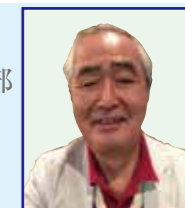
するとともに、軽井沢建築憲章の制定や、世界の建築家が参加する建築コンペの開催などを考えています。

「軽井沢の文化」には伝統によって残された建築と、新しい建築がスポーツや観光施設、美術館等というアートに結びついています。新しい文化のエネルギーを感じますね。その他、食や癒し空間などリゾートの多様性はありますが、それぞれには文化的な要素があり、そこに着目し磨く必要があります。時間と場所を提供するだけでなく、背景にある文化を発信したいですね。

(土屋) JC 時代「エコ・ミュージアム」活動に没頭した時期があります。エコ・ミュージアムを要約すると、地域全体を博物館と見立て、人物・モノ・時間・空間は地域の価値ある展示物で、住民は地域をよく知る学芸員として誇りと意欲をもって来訪者に地域文化を伝える役目を負います。地域文化の魅力の掘り起しや磨き込みは、トラストもさることながら、着地型観光、エコツーリズム、DMO (観光地域づくりプラットフォーム) にも通じる理念です。トラストと当協会は綿密な連携により、新たな可能性を追求していきたいと考えています。

### 『松岡 温彦』氏

1940 年東京生まれ、早稲田大学文学部並びに同大政治経済学部卒。  
住友信託銀行、住信基礎研究所  
(現三井住友トラスト基礎研究所)



常務取締役、軽井沢リゾートオフィス研究会設立、日本テレワーク学会幹事・監事を経て、現在、地域デザイン学研究所パートナー、陽風館・館長、国際人材交流支援協力機構・理事長、日本テレワーク学会・顧問、(財)軽井沢会会員、油屋プロジェクト監査役、軽井沢町文化財委員会委員など役職多数。  
著書「人われを在宅勤務社員と呼ぶ (実業の日本社)」、  
「遊職人種宣言 (玉村豊男氏との共著)」他多数。

(※1) 建物や景観との融合を図り、住みやすく美しいまちづくりの基本計画を担当する建築家。(goo辞書)

(※2) 英国で150年ほど前に始まり、歴史的出来事があった場所や著名人が住んだ家などに、名称や概要を記した青い銘板を設置する。(信濃毎日新聞記事)



軽井沢観光協会・事業委員会 / ドッグツーリズム推進プロジェクト 西山紀子



当プロジェクトは3年前から、「ウェルネスリゾート軽井沢」の一環として取り組んできました。本年、長野県の「元気づくり支援金」の採択事業となりました。

昨年は、軽井沢町内におけるワンチャンと同伴できる施設や、ショップを100店舗以上網羅した「軽井沢MAP with DOG」の作成にあたり、ドッグツーリズムを実践している施設の実態把握とコミュニケーションが図れ、観光資料としても貴重な機会となりました。すでに町内配布を進めていますが、愛犬家の皆さんから「こんなMAPがほしかった!」と大好評です。

次年度版では元気づくり支援金を活用して、「ピクトグラム(案内サイン)」（※1）を導入します。これまで、個々の施設がそれぞれの方法で表示していたペット同伴の利用内容を、同じ基準とデザインで統一し、施設相互の共有を図ります。それらの取り組みにより、軽井沢を訪れる皆さんにわかりやすくメッセージを伝えることが可能となります。さらに、この共通サインはマップの紙面やワンチャン受け入れ施設・店舗の入口やエリアに表示する

ばかりでなく、ネットやスマホでいつでも確認できるようになり、観光客や在住の方々にもワンチャンと一緒に生活するための満足度が高まるものと期待しています。

同時に、FM軽井沢ではオリジナル番組を作り、軽井沢で健康的に心豊かにワンチャンと過ごせることや参加型の様々なイベントなどについて、広く告知をしてまいりますのでご注目ください。

是非、本プロジェクトへのご理解とご協力をお願い申し上げます。



### ※1 ピクトグラム (案内サイン)



ここから先、ワンチャンの同伴はご遠慮ください



ワンチャンとの同伴OKエリア

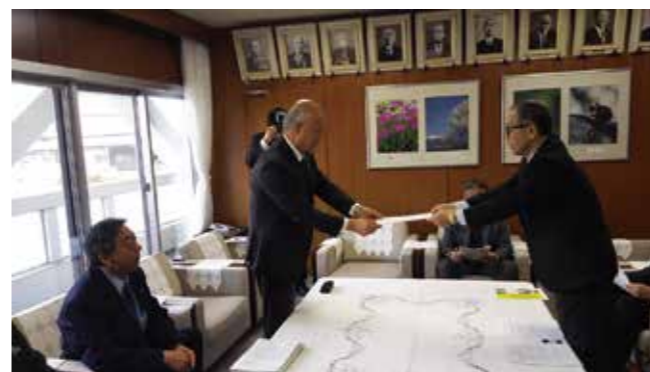


ワンチャンとの同伴、キャリーバックに入ればOK



ワンチャンとの同伴、テラスのみご利用可能

## 軽井沢観光戦略会議



▲町長に二年間の活動報告

軽井沢観光協会では一昨年(27年)度、行政、観光関係団体、事業者、公益的活動団体、住民・別荘民の方々と観光地域づくりのための相互意識共有を図るため「軽井沢観光戦略会議」の設置を提案しました。

国や県の審議員等を務め観光行政や戦略に精通し、日本版DMO(※)推進の第一人者である、大正大学清水慎一教授をアドバイザーに迎え、二年間様々なテーマについて議論を進めてきました。(27年の初年度は「観光懇談会」として緩やかな意見交換会とした)

内容は、①過去、多様な立場の人々が一堂に会し観光について語る場が無く、それぞれの存在と活動を認識できたこと。②高度化する観光に対する建設的な議論と、当会の観光ビジョン「美しい村(心身ともに美しい、健康的なリゾートスタイルを提供する=ウェルネスリゾートづくり)」に関して意見交換ができたこと。③先進リゾートとしての責任から強靱な核となる組織づくりの必要性が共有できたことです。

今年度は、③を進めるため、行政・商工会・旅館組合と当会によるプロジェクトチームにおいて基礎的な事項を検討(現在2回開催)し、その後全体会議において意見集約を図る予定です。

(※)DMO(Destination Management Organization)

観光庁では「地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人」としている。

## 信州デスティネーションキャンペーン(DC) 7月1日よりスタート!! 「世界級リゾートへ、ようこそ。山の信州」



JR全6社と長野県が共催する大型キャンペーン「信州デスティネーションキャンペーン(DC)」が7月1日、県内各地で一斉にスタートしました。

JR等を使い県内を広く巡り、県内の様々な魅力に触れていただくよう各地では生活や文化の磨き込み、新たな旅行商品の開発に余念がありません。

当観光協会は、軽井沢駅において近隣市町合同で観光キャンペーンを行い、JR軽井沢駅ホームでの歓迎セレモニー、しなの鉄道「ろくもん」の特別列車(軽井沢～塩尻)の出発式等を行いました。今年度もさることながら、次年度のアフターDCへの協力も尽力してまいります。

市場創造委員会 委員長 山田 敏彦

## 第3回 軽井沢WEB検定に向けて

軽井沢観光協会は、2018年2月に第3回軽井沢WEB検定を行います。さて、2級資格保持者の皆様、お待たせいたしました!!今年度は1級WEB検定を実施いたします。

軽井沢には地域文化・くらし・歴史・伝統・景観など知られざる奥深さがありますが、生活や仕事に勤しむ中では意外と知らないことが多いかと思えます。「もっと軽井沢を知りたい」、「軽井沢学を学びたい」、「知識を仕事に生かしたい」、観光協会としては「全国に軽井沢ファンをつくりたい」…。様々な目的を持った検定です。一般の方もさることながら、商店・企業等の皆様には知識の向上が図れることで自企業のアピールにもつなげることができます。

私たちはこのような取り組みにおいて、来訪を促していきたいと考えています。

組織強化委員会 理事 高見 康昭



▲左2級・右3級の合格者バッチ 有償





## 『軽井沢ハーフマラソン 2017』美しい新緑の中を疾走!!

5月21日「軽井沢ハーフマラソン2017(第32回ロードレースin軽井沢 震災復興チャリティー大会)」が、ハーフの部5,330人、ファミリーペアの部229組。ゲストにプロランニングコーチの金哲彦さん、TOKYO GIRLS RUNのメンバーをお迎えし、開催されました。

新緑の最も美しい季節の高原リゾートを駆け抜けるこの大会は、県外や女性の参加者が多いのが特徴です。その要因としては首都圏からのアクセスが良く、大会前後にもオシャレなレストランでの食事やショッピングなどのプラスアルファの楽しみが多いことも考えられます。

当日は、気温が高く暑い日でしたが、沿道の応援に支えられ多くの方が完走されました。当協会ではISAKの生徒たちやボランティアの方々の協力を得て、折り返し地点の湯川ふるさと公園で、ランナーに果物サービスをさせていただきました。さらに今回も町内施設には「ランナー&ボランティアのための特典サービス」にご協力いただいたことで、ビフォー&アフター・マラソンの楽しみが定着してきました。この大会はボランティアや町民のおもてなしの精神に支えられています。今後ともよろしくお申し込み申し上げます。



## 第8回『グランfond軽井沢』

春のイベントとして定着した「グランfond軽井沢」が5月13日(土)・14日(日)開催されました。

初日は、グルメ・スイーツがテーマの「ザ・グルメfond軽井沢」、カップルや親子が共に楽しむ「ザ・タンデムfond軽井沢」、恋愛までの「グランfond軽井沢ハーフ」、1泊2日の「ハーフ&ハーフ」と種目も増え、多様なサイクリングを楽しまれたものと思います。

2日目は、軽井沢を起点に浅間山麓一周124.1kmの本格山岳ロングライド「グランfond軽井沢」が開催されました。本年より、グランfond軽井沢の姉妹大会「グランfond恋愛」、アニメ・コミック・キャラクターファンのためのサイクルイベント「グランfondKOMORO」も同時開催され、合計2,092名の参加者に浅間山麓のダイナミックな景色の中の走行を楽しんでいただきました。浅間山麓広域観光推進協議会(東御市、小諸市、御代田町、軽井沢町、長野原町、恋愛村の行政と観光協会)で組織する広域観光連携団体では、本イベントを益々充実、定着させるため、主催者や各地区との協力協議にはいりました。

主催者側は毎年様々なリスク管理ノウハウを学んでいます。次回にはさらに充実した対応を目指しています。

## 16a GiRO di Karuizawa

「軽井沢での小旅行」と名づけられたジーロ・デ・軽井沢。第16回目を迎え5月27日、28日古きよき時代のヒストリックカーたちが初夏の軽井沢に集いました。スタート地点のエルトおもちゃ博物館や軽井沢発地市庭には往年の名車を一目見ようとギャラリーが大勢集まり、熱心に写真を撮っていました。また沿道で声援を送る旧車ファンも多く、参加者たちは快晴に恵まれた2日間、軽井沢・浅間山麓周辺ルート350キロを走り楽しみました。



### インバウンド、新たなマーケットを求めて!! (フランス観光機構招聘)

2017年5月28日に、「アトゥーフランス(フランス観光機構)軽井沢1日視察旅行」を実施しました。これは、昨年の「G7・交通大臣会合」後のヨーロッパ諸国からの観光・会議誘致活動として、2016年10月には観光協会主催「世界に通じるリゾート地をめざして」とするシンポジウムを開催し、2016年11月には観光協会・インバウンド部会の在京ドイツ大使館・フランス観光機構訪問をするなど、それらの一環として実施したものです。今回、アトゥーフランス主催の東京商談会に参加するため訪日した中の



15名が機構職員とともに来軽し現地視察をされました。まず、JR改札口で藤巻町長等の出迎えから始まり、鬼押し出園や白糸の滝などの景勝地、旧三笠ホテルや昼食会場となった万平ホテルを見学。旧軽井沢銀座での散策の後、千住博美術館に移動しました。次に強いリクエストがあったアイスパークでのカーリング体験や風越公園のスポーツ施設の見学が主なものとなりました。初回ということもあり、オーソドックスなプログラムでまとめています。

観光協会・インバウンド部会では15年近く前からアジア圏からの誘客を図るため積極的に軽井沢観光をアピールし、会員企業においても個々にマーケットを開拓してきた結果、今日多くの外国人が町内を回遊するようになりました。そして、アジア圏と並行し次の市場と目しているのが欧米です。今回、観光先進国フランスの視点から見た軽井沢のインバウンド活動や観光業の取り組みについて意見を伺い、様々なアイデアも交換できました。目の覚めるような内容の濃い貴重な1日でした。

後日、アトゥーフランスより軽井沢の訪問各所の具体的な感想や、私達のホスピタリティーについて高い評価と感謝の意をいただいていることから、先方機構と当協会とのより深い関係性が構築できるものと考えております。

事務局 柏木 麻理

### 香港 ITE 参加及び香港・上海セールスコール実施報告

6月17日~18日、第31回「香港国際旅行展示会(ITE)」に参加しました。県&アルピコグループとの共同ブースでの参加で、来場者に軽井沢のPR活動をするともに、現地のニーズを図るため、直接の声やアンケートを実施いたしました。軽井沢へのリピーター率の高さにも安堵した次第です。



翌日からは、香港のメディアや旅行会社など数社、県担当者と共にセールスコールを行い、特にEGL tours社では、袁社長が「長野県国際観光大使」着任を翌7月に控えていたため、軽井沢での滞在、任命式当日などの打ち合わせも行いました。他、クロスボーダー社では数冊のガイド本に掲載することから香港客ニーズに応えるため誌面企画等具体的な打ち合わせをしてきました。22日には上海に移動。最大手旅行会社のシートリップ(Ctrip)社で、上海市場の動向やFIT(個人手配の海外旅行者)増加への可能性についてなどの多くの情報を得て帰国しました。

インバウンド部会 部会長 荻原 代志智

### タイでのPRは今がチャンス!! タイ・バンコクでの旅行社訪問、 セミナー・商談会の報告

観光協会・インバウンド部会では、国・地域の特性を踏まえた戦略的な誘客活動を展開していますが、タイにおいては①現地を訪問してのPR、②視察をうながし発信してもらう、という二つの戦略で取り組んでいます。今回は、タイ語のサイクリングマップとウォーキングマップをUSBにデータ入力し持参したことで配布量が格段に増えました。

知事自らPRした長野県主催のセミナー・商談会に参加と同時に、更なる誘致を図るため旅行社訪問も実施しました。

◎日程：7月17日(月)旅行社5社訪問

7月18日(火)長野県主催 セミナー・商談会参加

今回の旅行社訪問と商談会参加を通して、各社の軽井沢の秋~冬への関心が高く、タイからの観光客の倍増に期待がかかります。

今、タイへのPRはチャンスです。タイのメディア・旅行社も情報を求めています。インバウンド拡大を目指している会員は、是非、インバウンド部会にご相談ください。



インバウンド部会 理事 佐藤 敏明



## 平昌オリンピック出場決定!! SC 軽井沢クラブ

皆様こんにちは。男子カーリングチーム・SC軽井沢クラブの両角です。

この度、男子カーリング史上初めて、自力での五輪出場を獲得いたしました。1998年長野冬季五輪開催以来、多くの関係者の方々が「カーリングの街・軽井沢」を目指し、また、私たち選手は多くの皆さまに支えられて活動してまいりました。

そして、20年という長い年月を経て、ついにみんなの一つ目のゴール「地元チームを五輪へ」という夢が叶いました。全てはここまでの活動を支えてくださった皆さまのおかげと、深く感謝しております。

私たちの次のゴールは「五輪での表彰台」です。チーム一丸となって邁進していきますので、引き続き、ご声援よろしくお願いたします。



SC 軽井沢クラブ / 両角友佑 (スキップ)

▲写真提供: SC 軽井沢クラブ

## 軽井沢ウィンターフェスティバル 2018 軽井沢・冬ものがたり ~White Love in Karuizawa~

11月25日(土)軽井沢ウィンターフェスティバル2018

★オープニングマルシェ(軽井沢本通り)

★オープニングHANABI



11月より最新情報  
随時UP予定

12月16日(土)

軽井沢クリスマスナイトマルシェ

恵みシャレー軽井沢

大好評の冬の祭典!!

今年も盛りだくさんの

イベントを企画しています。

..楽しみにして、

素敵な冬をお待ちください!!..

<https://www.karuizawamonogatari.jp/>



軽井沢観光協会 賛助会員



**DELiCiA** 軽井沢店  
デリシア

北佐久郡軽井沢町軽井沢野原1323-1002(国道18号線沿い・JR軽井沢駅近く)  
営業時間9:00~23:00(年中無休) TEL.0267-42-0505

デリシア軽井沢店は  
「安全・安心」「地元産」「楽しいお買物」にこだわり、  
お客様の期待に応え続けられるお店を目指してまいります。  
皆様のご来店を従業員一同心よりお待ちしております。

